

琉球大学医学部医学科同窓会会長退任のご挨拶

前医学科同窓会会長 増田昌人(2期生)
琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授



この度の第21回総会にて、5期10年務めた琉球大学医学部医学科同窓会会長の職を退任することになりました。先ずは、会長在任中にお世話になった多くの方々に厚く御礼を申し上げます。

これまでの、5期10年を省みたいと思います。

1. 就任の経緯

2001年3月に第4代会長の健山正男さんから、次の医学科同窓会会長就任の打診が有りました。当時は英国留学から帰り、第二内科の血液・腫瘍内科グループのチーフとなっただけで、心の余裕もなくお断りしました。2年後、健山会長から同様のお話があり、再度お断りしました。しかし、その時は健山会長も諦めずに私を訪れること三度、最後は第二内科講師室で、同じ第二内科講師の島袋副会長(当時)とお二人で、説得されました。健山会長の熱い思いに応えるほかはないと思い、会長職を内諾しました。その後は、二期生代表の3名の同窓会評議員の承認、二期生メーリングリストでの承認、評議員会での審議、推薦を経て、第11回総会で正式承認を頂き、2003年8月に第5代会長となりました。

2. 当初の問題点；未認知と誤解

当時は、医学科同窓会が未だ沖縄の医療界どころか母校の医学部からも認知されていない状況でした。さらに、同窓会はある特定のクラブ出身者が作った偏った集団であるという誤解も強くありました。このため、学部長、病院長はじめ全教授に対して、個別に就任挨拶と同窓会の紹介を行い、誤解を解くように心掛けました。例えば、学内の諸行事には積極的に参加し、入学式、卒業式、その他の行事に同窓会会長としての挨拶をプログラムに正式に入れてもらえるように努力しました。教授の就任・退任のご挨拶を始め、冠婚葬祭には欠かさず出席するようにしました。その結果、今日では、同窓会は中立・公正を保った団体であると認知されています。

また、琉球大学同窓会の評議員に推薦され、その後は大学同窓会でも積極的に仕事を行いました。大学同窓会総会の会場設営や駐車場係、案内

係や受付に始まり、琉球大学及び大学同窓会の周年行事の実行委員、役員選考委員等も務めました。その結果、毎年の同窓会総会に大学同窓会会長が出席して下さるようになり、最終的には有難いことに琉球大学学長にも出席していただけるようになりました。

また、定期的に同窓会の活動を、学部長、病院長へ広報するようにしました。すると、医学部(含む附属病院)側からも要望事項等が出るようになり、結果的に医学部幹部と我々同窓会役員が話し合う機会を得て、現在「医学部と医学科同窓会との懇談会」の定期開催に発展しています。

3. 次の課題；医師国家試験合格率低迷と教授選

会長就任時から、国試合格率は良くありませんでしたが、私が就任後急速にその順位を下げ、残念ながら国公立大学では最下位かそれに近い成績となりました。同窓会として、医学部へ改善要望を出すとともに、医学科6年生(学生会員)及び国試浪人生(正会員)への国試模試代金の負担、国試予備校のカリスマ講師による学生向け講演会、同教員向け講演会等いろいろと対策を行いましたが、私の力不足で、在任中には全く効果が認められませんでした。次の新役員に、引き続き対応をお願いしたいと思います。

また、会長就任時より、正会員から母校の医学部の教授を輩出することは同窓会会長としての義務ともいえるものでした。就任時から、学部長、医学科長、医学研究科長、病院長等には協力をお願いをし、その後も異動が有るたびにお願いをしてきました。近年では、学長・副学長、琉球大学同窓会長・副会長、詳細は書けませんが七帝旧六等の大学関係者やその他考えられる多くの方々に協力を依頼しました。もちろん、医学科関係者にも働きかけを行いました。しかし、私の力不足で、在任中には全く効果が得られませんでした。この件も、次の新役員に引き続き対応をお願いしたいと思います。

4. その他の課題と新規事業

会長就任時から支えてくれた蔵下要副会長、田名毅副会長、屋良さとみ会計(後に副会長)、そして2年前から就任した平良民子会計からの様々な助言・提案により、色々な課題の改善及び新規